

遊学俳句

吉谷夏洞選

優秀

ダムとなる

奈落見下ろす山紅葉

(大滝ダム)

森岡節子(西真美)

(評)ダム工築は大変な工事でき止めるコンクリートの岸壁が幾十米の高さでその雄大さと恐ろしさは心胆を寒からしめる程でそれを奈落と言う言葉でうまく表現され山紅葉が映えるようです。

漁火の動かぬ距離に冬の宿

里本淑子(西真美)

大漁の船に大群春かもめ

大西敏子(平野)

習作の手袋もらう誕生日

松田奈良(関屋北)

手をついて独り芝居か青蛙

田中舒子(北今市)

炎昼や黒光りせる葛本舗

清水美彌子(関屋北)

図書館は息抜きの場所葛若葉

浜口福子(関屋北)

一人飲めば皆飲むラムネ通路衆

近倉利子(関屋北)

下萌や明日に控えし二人展

奥村成子(関屋北)

稲架解きて湖国は広き胸開く

黒川静雄(上中)

流星やきゆる刹那の願ひごと

河村須賀子(畑)

(総評)

俳句は二つの物を取合わせを大切にせよと芭蕉は言っている。又山口曙子は二句一章と取らえ物の取合わせのことを述べている。佳作の句もよい所をとらえ季節の響もよい。

ニ夕上の風を背にして牡丹焚き

【お詫びと訂正】

前号で次の方の作者名が間違っていました。お詫びと訂正をさせていただきます。

(清水美弥子) ↓ (清水美弥子)

遊学短歌

二城しづ子選

優秀

人麿呂の月かたぶけば

かぎろひの

燃えたつ阿騎野に

人みな無口

中間伸子(穴虫)

(評)柿本人麿呂の歌を下敷きに、暁暗に燃えたつかぎろひの神秘を感動的に詠んでいます。人麿呂の月、という大胆な比喩もその場の雰囲気伝えて力があります。

季節感の無きものに店に溢れみて
旬とふこばも聞かずなりゆく

山本晴子(真美ヶ丘)

美しき声にあらねど雉の啼くた
だそれのみに耳そばだてぬ

西川国子(真美ヶ丘)

一年の速き流れを振り返る袖子
一つ浮く湯舟に浸りて

中島都思子(藤山)

健康であれば不満を言ふまいと
年の初めにひそかに誓ふ

田熊禎子(真美ヶ丘)

除夜の鐘悪しき子年よ夢と去れ
五の歩みの新年こそよと

大橋喜好(西真美)

戦争を知らぬ世代の孫たちに
葉月十五日の悲しみ語る

吉田ヤチヨ(穴虫)

教へ子の父のお通夜に行くといふ
婿の背見送る無言のままに

浴野一美(五位堂)

菊の香に遠き想ひ出よみがへる
ままごと遊びの幼き友よ

井上菊子(北今市)

うろたへて間違ひましたと
言はれしが深夜の電話に
鼓動高鳴る

岡田かをる(磯壁)

鯉のぼり納戸の隅に陣取つて
どきりとさせる大きな目玉

河村須賀子(畑)

遙かなる古代の遺物日の目見て
考古学者の夢広がりぬ

山本トミ子(五位堂)

滑降の若きら映す白樺湖
師走の空に雲一つなし

浜辺カズ子(穴虫)

悠久の仏教魂に魅せらるる
寺院はなべて黄金の国(タイ)

奥田文子(関屋北)

葉帽子に冬陽さしこみ寒牡丹
恥ぢらふごとく紅の匂へり

田中操(逢坂)

降る雨に鎮魂のごと咲き初むる
あざさるの花 蒼の煌めき

島田政子(北今市)

(総評)

「石垣の目地に染める水にさへ根づきて雑草は実をつけむとす」先頃の自作です。言葉飾らず、心に訴えるものを率直に表現したいものです。

素材は無限。今回は写真、旅行詠、生活詠、心象詠と各自の個性も見えて、楽しい選歌でした。



募集しています。

遊学俳句および遊学短歌では、ご投稿をお待ちしています。応募方法は作品を葉書、または封書で係までお寄せ下さい。

◆締め切り/平成九年十二月末
◆宛て先/香芝市本町1-307
香芝市役所 企画課 「香芝遊学」 編集係